

# 県内20病院が導入

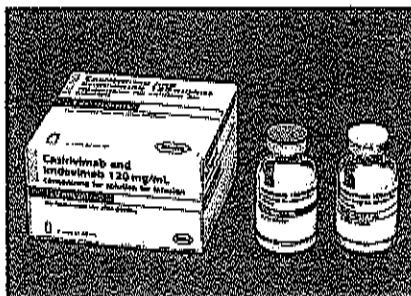
## 「解熱に効果」運用面課題も

新型コロナウイルス感染症の重症化防止に効果があるとする「抗体カクテル療法」について、福井県内の20病院が既に使用したか導入準備を整えた」とが、県への取材で分かった。使用実績のある病院は福井新聞の取材に「解熱する患者が多い」と効果に手応えを示す。一方、国が外来使用を認める方針を示したこと踏まえ「患者が急増した場合、どうぞ投与するかが重要」といった指摘も聞かれる。

## 抗体カクテル療法

抗体カクテル療法 軽症や中等症の新型コロナ患者のうち、重症化リスクが高い人を対象とした治療法。米シリコンが開発し、中外製薬が国内販売を担う新薬「アブリーブ」が特例承認された。「カシリビマブ」「イムテヒマブ」の2種類の抗体を組み合わせるもので、点滴投与することでウイルスが細胞に結合するのを防ぐ増殖を抑える効果があるといわれる。

(前田卓)



厚生労働省が7月19日に特例承認した抗体カクテル療法は、発症から原則7日以内に投与する必要がある。これまで、軽症や中等症の患者の重症化を防ぐ効果が期待されている。医療機関が

治療薬の配分を受けるには、国内販売を担う中外製薬(東京)が開設したセンターに登録する必要がある。厚労省は8月25日、外来患者にも投与を認める事務連絡を都道府県に出した。

県によると、新型コロナ患者を受け入れている県内の病院のうち20病院が治療薬の在庫確保を希望した。県は8月末時点でこのうち14病院での使用を把握しており、導入の動きが加速しているとみられる。

使用実績のある複数の病院に取材したところ、回答のあった病院は「まだ症例はない」と前向きした上で、「ねむね効果を

実感している。

8月26日までに10人に投

る」「今度はこのので臨内に解熱しておらず、効果的な薬だ」と答えた。特例承認の2日後に登録し8月25日ま

でに8人に使った別の病院

は「投与後に一過性的の発熱が2例あったが、その他の副作用はなかった。重症化した患者はない」とした。

一方、「入院できない患者が増えた場合、どうぞ投

与した病院は「投与後速やかに解熱する患者が多い」と説明。8月末までに14人に投与した病院は「ほぼ2日以内に解熱しており、効果的な薬だ」と答えた。特例承認の2日後に登録し8月25日までに8人に使った別の病院は「投与後に一過性的の発熱が2例あったが、その他の副作用はなかった。重症化した患者はない」とした。一方、「入院できない患者が増えた場合、どうぞ投与するかが重要」という指摘も聞かれた。

県幹部は「抗体カクテル療法は早期対応が前提。医療体制を維持するためにも、県民一人一人が感染予防を継続し、早めに相談・受診してほしい」と話している。

厚労省が特例承認した抗体カクテル療法の治療薬(中

外製薬提供)